

大正四年四月十六日

内閣書記官

内閣總理大臣 閣

内閣書記官長 達

大正四年四月十六日 内閣總理大臣

賞勳局總裁宛

申 牒

後醍醐天皇等男爵島津忠欽

右島津久光ノ第四子ニシテ弘化二年十一月廿二日ヲ以テ生ル後出テ、全藩門閥島津家ヲ継キ今和泉ヲ領ス安政以來父久光

内閣

二十四

又ハ兄忠義ニ従ヒ國事ニ盡瘁スル所アリ殊ニ明治二年春西郷隆盛藩兵ヲ率テ函館方面ノ賊ヲ征討セシ時兄珍彦ト共ニ兄忠義ノ命ヲ承リ延軍勲功數カラス維新後仕官ヲ絶テ専ラ親兄島地方殖産興業ノ事ニ任シ今日ニ至ル然ルニ目下病氣ニ罹リ危篤ノ歎ニ付前切リ願ヒ勲三等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ候様致度

裏面白紙

明治二年春西角隆威藩
兵ヲ率テ函館方面へ賊ヲ
征討セシ時兄珍彦ト共ニ
忠義ノ金ニ依リ征軍ノ勲ヲ
不欠

後四位^旭勲四等男爵

島津忠欽

君ハ從一位島津久光ノ第
四子ニシテ弘化二年十二月廿日
ヲ以テ生ン後出テ全藩門
閥島津家ヲ継ギ今和泉
ヲ領ス安政以來父久光又
兄忠義ニ從ヒ國事ニ尽瘁
スル如アリ維新後仕官ヲ絶
テ專ラ鹿児島地方殖産
興業ノ事ニ任シ今日ニ至ル
現今ノ有書ハ從四位男爵

224

五十一

秘 八一四

大正四年四月十五日

内務大臣子爵大浦兼武

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

勲等陞叙、件申牒
從四位勲四等男爵島津忠欽ニ對シ
勲等陞叙、儀別紙ニ通庶民島縣
知事ヨリ内申有之、及申牒
系可然、多詮議相成度

號外

敘勲ノ儀内申

從四位勲四等男爵島津忠欽

右者故從一位大勲位公爵島津久光ノ第四子ニシテ公爵島津忠濟ノ兄ナリ幼時出テ、同藩門閥島津家ヲ継キ今和泉ヲ領ス後チ家督ヲ二男隼彦ニ讓リテ宗家ニ復籍シ又更ニ分レテ一家ヲ創立ス風ニ尊王ノ志ヲ懷キ安政以來父久光兄忠義ニ從ヒ國事ニ盡瘁スル所アリ明治初年國家擾亂ノ際ハ進ンテ皇軍ニ從ヒ勲勞アリ維新後全ク仕官ヲ絶チ專ラ地方殖産興業ノ獎勵ニ任シ風俗ノ改善ニ努力スル等其ノ功績不尠者ニ候處昨今病氣危篤ニ瀕シ候ニ付此際特旨ヲ以テ勲等陞敘相成度此段内申候也

大正四年四月十五日

鹿兒島縣知事高岡直吉

内務大臣子爵大浦兼武殿

記
八

076

内務省

秘

八一三號

大正四年四月十五日

内務大臣子爵大浦兼武



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

位階陞叙ノ件申牒

従四位勲四等男爵島津忠欽ニ對シ
位階陞叙ノ儀別紙ニ通牒見島縣
知事ヨリ内申有之ヲ要及申牒候
条可然多詮議相成度

位階陞叙ノ件ニ宗徳寮ニ於テ自海海

内務省

秘

八一三號

大正四年四月十五日

内務大臣子爵大浦兼武



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

位階陞叙ノ件申牒

從四位勲四等男爵島津忠欽ニ對シ
位階陞叙ノ儀別紙ニ通牒見島縣
知事ヨリ内申有之ヲ要及申牒候
条可然此旨議相成度

號外

特旨敘位ノ儀内申

從四位勲四等男爵 島津忠欽

右者故從一位大勲位公爵島津久光
ノ第四子ニシテ公爵島津忠濟ノ兄ナリ
幼時出テ、同藩門閥島津家ヲ継キ今
和泉ヲ領ス後チ家督ヲ二男阜彦ニ
譲リテ宗家ニ復籍シ又更ニ分レテ一家
ヲ創立ス夙ニ尊王ノ志ヲ懷キ安政以來
父久光兄忠義ニ從ヒ國事ニ盡瘁スル所
アリ明治初年國家擾亂ノ際ハ進ンテ
皇軍ニ從ヒ勲勞アリ維新後全ク仕官
ヲ絶チ專ラ地方殖産興業ノ獎勵ニ任
シ風俗ノ改善ニ努力スル等其ノ功績不
尠者ニ候處昨今病氣危篤ニ瀕シ候
ニ付此際特旨ヲ以テ位階陞敘相成度此
段内申候也

大正四年四月十五日

鹿兒島縣知事高岡直吉

内務大臣子爵大浦兼武殿